

国際惑星地球年(IYPE)開催式典における宣言 ユネスコ, パリ, 2008年2月12-13日

序

国際連合総会が2008年を国際惑星地球年と宣言したことを思いおこし；

生きとし生けるものが、唯一無二で多様性に富み、常に変化して止まない、この地球という自己持続的なシステムに依存していることを考慮し；

全地球の持続可能性に関するいかなる決定も、既存の、あるいは今後発掘されるであろう地球科学の知識抜きには困難であることを強く訴え；

気候や水、そのほかの天然資源、エネルギー、健康、土壌、大洋、地球深部、自然災害、あるいは生命そのものの問題に対応可能な多大の地球科学関連情報が、未だ十分に人々に知れ渡らず、また多くの場合、政策決定において利用されないままになっていることに鑑み；

国際惑星地球年と地球科学が地球資源の持続的利用を促す上で重要な役割を担え、ユネスコが主導する『国連持続的開発のための教育の十年』や国連ミレニアム開発目標に価値ある貢献ができることを確信し、そして、

惑星地球を慈しむ心を育てること、地球をつくるすべてのものが秘めている可能性と脆さを社会に気付かせること、そして自然災害を軽減すること、これらはより平和で豊かで、かつ充実した国際社会の基礎を築くことを確信し；

ここに、私たちは

1. あらゆる国の政策決定に関して、この惑星地球についての膨大な知識を自由に入手、利用できるように促し、また、先進国、発展途上国の別なく新たな知識と技術の恩恵を享受できるよう、その開発を奨励し；
2. 公的機関や産業界のみならず、地球科学関連機関・団体が、国際惑星地球年を支援して新たな知見を得るよう、また自然災害による被害を軽減するとともに拡大する国際社会と次世代の要求をともに満たす持続的開発の新戦略を掲げられるよう奨励します。

そのために、私たちは

- a) 国の教育制度の見直しや、地球科学・宇宙科学分野の研究機関、大学の研究者増員によって、地球科学に接する機会を増やし；
- b) 『全地球地質図ポータル計画 (OneGeology)』や『国連空間データ基盤 (UNSDI)』のような、全地球デジタル情報を一般に利用可能な形で作成し；
- c) 保存と開発についてともに考える場としてのジオパークや生物圏保護区、世界遺産をとおして、地球というシステムの構造や進化、その美しさと多様性、そして大地に育まれて発展してきた人類の文化についての関心を高め；
- d) 地球上の大規模な変動を予測するために、既存の全球地球観測システムを拡充・活用して、地球に関する遠隔および現場モニタリング双方に力を注ぎ；
- e) 持続的発展のための地球科学国際研究センターを設立し、そして、
- f) 書籍、DVD、あるいはTV番組などを制作し、人々が気軽に地球科学に接することができるよう、また国際惑星地球年プログラムが終了した後もその成果が継続するようします。

より良い地球に — 社会のための地球科学 —